

## 1. 記念事業の概要

学会設立 20 周年を記念して、下記のような事業を企画した。①の記念集会は第 20 回学術集会での同時開催とし、プログラムの一部に位置づけて行った。②は学会として「養護教諭教育」の領域を示すことが懸案事項であったため、20 回目を迎える学術集会の開催を機に取り組んだ。③は学術集会の参加会員には会場で配付した。④は当初の発行期日を変更して、学術集会での記念集会を記録し、掲載することにした。

### ①20 周年記念集会の開催

- ・「記念式典」の開催
- ・「記念特別講演」の開催
- ・「学会のあゆみ」の常設展示
- ・「祝賀会」の開催
- ・「ミニシンポジウム」の開催

### ②学術集会における一般発表の演題区分の提示

【原理・歴史】 【現職教育】 【養成教育】 【養護実践】 【保健室経営】 【組織活動】 【保健管理】  
【健康教育】 【その他】 に分類

### ③「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第二版>」の発行（2012 年 10 月 1 日）

### ④「20 周年記念誌」の発行（2012 年 12 月中旬）

## 2. 記念集会の報告

### 1) 学会設立 20 周年記念式典

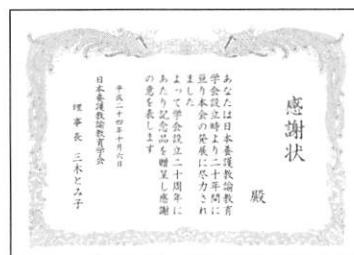
10 月 6 日（土）午前 10 時～10 時 50 分に、「ウイंकあいち」の大ホールで行った。司会は、古賀由紀子理事と小林央美理事が務めた。ご来賓と 20 年会員表彰者には、日本養護教諭教育学会のシンボルカラーであるピンク色で作成された式典プログラム（右図）が配付された。

三木とみ子理事長挨拶の後、来賓の紹介がなされた。ご来賓は本学会が HP のリンクを張っている関係学会及び関係団体のうちの 4 団体（日本学校保健学会、日本健康相談活動学会、全国養護教諭連絡協議会、日本養護教諭養成大学協議会）代表者であった。

ご来賓を代表して、学会設立時より大変お世話になっている日本学校保健学会の佐藤祐造理事長がご祝辞を述べてくださった。

今回の記念式典企画として設けられた「5. 学会設立からの会員表彰」では、20 年間会員である 26 名の表彰があり、参列者 13 名の方々に感謝状と記念品が贈呈された。受賞者を代表して、中桐佐智子元理事がお礼の言葉を述べた。

「6. 日本養護教諭教育学会 20 年のあゆみ」報告は、鈴木裕子常任理事が行った。プレゼンテーションの内容は「学会の設立経緯」から始まり、「会員数の動向」、「通信及びハーモニーの発行」、「研究大会及び学術集会の開催」、「養護教諭の英語表記についての検討」、「研究活動への支援」、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集の発行」、「対外的な活動」、「学術団体としての評価」などで構成された。これらの内容は常設展示の内容をまとめたものであった。



「7. 学会設立20周年記念事業の紹介」は、鈴木薫前理事が行った。前頁の枠内に表示した①～④の事業について、設定のねらいや主たる内容がスライドに示され解説された。

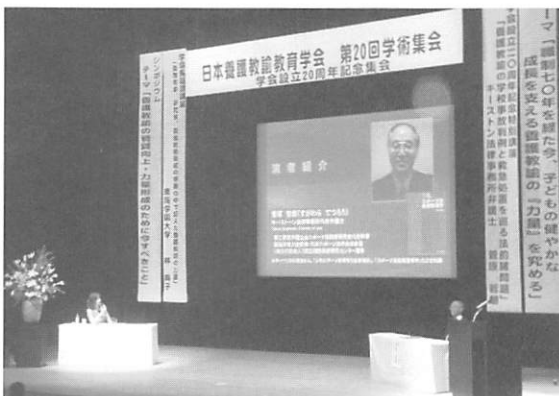
＜学会設立時からの会員表彰＞



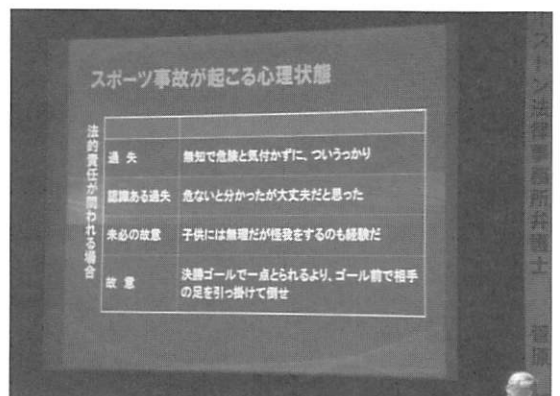
2) 記念特別講演

記念式典の後、同会場にて午前11時～12時30分に行った。講師に菅原哲朗氏（キーストーン法律事務所弁護士）をお招きし、「養護教諭の学校事故判例と救急処置を巡る法的諸問題」と題した講演が行われた。司会は、学会設立20周年記念事業実行委員会の後藤ひとみ委員長が務めた。抄録集には、「養護教諭参考判例一覧表」として10事例が解説されており、参考にすべき資料になっている。講演内容の詳細については、2013年3月に発刊予定である学会誌第16巻第2号をご覧ください。

＜講師紹介の様子＞



＜講演内容＞



3) 常設展示

10月6日（土）は午前9時30分～午後3時まで展示場で、7日（日）は午前9時～午後3時まで中会議室Aで行わ

れた。4枚のボードのうち、1枚には日本養護教諭教育学会の20年間にわたる様々な歴史的トピックスが「20年の歴史」としてまとめられた。その内容は、さらに「学会集の歴史」「ハーモニーの歴史」「学会誌の歴史」を柱に解説され、細項目として「研究活動への支援」「用語の解説集の発行」「会員の動向」「対外的な活動」「対外的な評価」についても解説された。

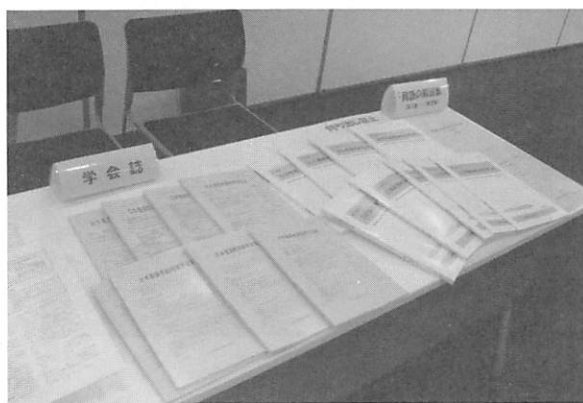
ポスター前の机には第1回～第20回までの学会集の抄録集、第1号～第59号までのハーモニー、第1巻第1号～第16巻第1号までの学会誌、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」第一版と第二版の現物を展示した。

＜展示の全体＞



＜参加者の様子＞

＜「学会誌」と「用語の解説集」の机上展示＞



4) 祝賀会

10月6日(土)午後5時～7時に展示場にて行った。司会は今野洋子理事と徳山美智子前理事が務めた。林学会長、東海学園大学の奥田達也教育学部長、三木理事長の挨拶に続き、「5. 来賓挨拶」では、学会設立20周年記念祝

賀会のご来賓を代表して日本学校保健学会の佐藤祐造理事長、第20回学術集会懇親会のご来賓を代表して愛知県教育委員会健康学習課の長谷川勢子課長のご挨拶があった。「6.乾杯」は堀内久美子初代理事長のご発声で行われた。「7.歓談」では、記念式典で行われたプレゼンテーションとは別に用意された「20年の歩み」ダイジェストと20年会員からの声が山崎隆恵前理事から報告された。これを受けて、20年会員を代表して小笠原紀代子元世話人と鎌田尚子元理事のスピーチ、元監事であり初の選挙管理委員会委員長を務めた吉田瑠美子会員のスピーチが行われた。お楽しみコーナーでは、20周年を記念してくじ引きが行われた。このコーナーは真野初美実行委員と圓岡和子実行委員が進めた。その後、次第では予定していなかったが、司会者と実行委員会によるサプライズ企画で歴代理事長5名（代理含む）に花型の燭台が渡された。会場照明が消えた中で、ライトアップされた色とりどりの燭台が輝き、幻想的な一幕となった。

学会設立20周年記念事業実行委員会の後藤ひとみ委員長の挨拶の後、20周年記念事業実行委員と第20回学術集会実行委員が整列し、紹介された。第21回学術集会の北口和美学会長が大平曜子実行委員長と大川尚子事務局長を伴って挨拶し、最後は司会者の徳山前理事による一本締めで閉会した。

次 第	
1	開 会
2	第20回学術集会学会長挨拶
3	東海学園大学教育学部長挨拶
4	日本看護教育学会理事長挨拶
5	来賓挨拶
6	乾 杯
7	歓 談
	・「20年の歩み」ダイジェスト
	・会員スピーチ
	・お楽しみコーナー
8	学会設立20周年記念事業実行委員長挨拶
9	第21回学術集会学会長挨拶
10	閉 会



＜堀内久美子初代理事長による乾杯＞



＜20年の歩みダイジェストと20年会員の声＞



＜お楽しみコーナーの様子＞



＜歴代理事長へのサプライズ＞



## 5) ミニシンポジウム

10月7日（日）午前9時50分～11時20分に第5会場（中会議室A）で行った。司会是三木とみ子理事長、記録は鈴木裕子常任理事が務めた。テーマは「歴代理事長が語る本学会のこれからの使命と期待」と題し、これまでの学会の歩みを振り返るとともに、フロアからの意見を交えて今後の学会への期待などを話し合うことを企図して行われた。しかしながら、第Ⅱ期と第Ⅲ期の理事長が健康状態等の諸事情で欠席となったため、大谷元理事長の抄

録内容は堀内初代理事長、天野元理事長の抄録内容は後藤前理事長が代わりに解説することになった。下記は発表概要である。

### ①学会胎動期から第Ⅱ期までの活動

日本学校保健学会の共同研究「養護教諭の養成教育をめぐって」は多様な養成機関の教員や現職養護教諭の有志が初めて集った画期的な研究であり、その成果は1990年に「これからの養護教諭の教育」として発行された。このときの世話人であった故小倉学氏と故泉谷秀子氏のご遺志を汲んで1992年に「全国養護教諭教育研究会」の発起人会が結成され、同年11月、安藤志ま氏が元養護教諭として初めて学会長を務められた第39回日本学校保健学会(名古屋)で設立総会が開催された。「日本養護教諭教育学会」への名称変更は1996年の第4回研究大会にて承認された。その際に学会誌編集への気概を生み、1998年3月の創刊につながり、順調な発展によって2011年度には年2回発刊が実現した。

### ②第Ⅲ期から第Ⅴ期の活動

設立当初は養成教育にシフトしていたが、第6回学術集会以降は「養護教諭の実践」に着目するようになった。第13回以降は「養護学」「養護教育学」もテーマに取り上げるようになり、「養護教諭の実践(養護実践)」「養護教諭の養成(養成教育)」「養護教諭の研修(現職研修)」の三位一体の交流や研究を行うという「養護教諭教育」の理念を具現化してきた。第Ⅲ期には、養護教諭の英語表記とその説明文、本学会の英文名を検討し、ホームページの開設、研究助成費の増額、事務局体制の充実等を図った。第Ⅳ期には「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第一版>」発行、学術集会プレコンgressの開催、諸規定の整備等、第Ⅴ期にかけては「養護教諭の職業倫理に関する検討」や投稿奨励研究の新設、学会誌の年2回発刊を行い、学術団体の指定、学術刊行物の指定、中央教育審議会等への意見提出等を行って学会としての社会的な地位を着実に確立してきた。今後は、養護教諭教育にふさわしい学術研究の充実と養護教諭の専門性を支える学問の構造化が本会に課された責務であり、今回初めて提示した「一般演題の領域区分」はその足がかりになるものである。

#### <司会者による趣旨説明>



#### <会場の様子>



### ③シンポジウムのまとめ

フロアから「Yogo teacherの説明文を知りたい」との質問があり、「用語の解説集<第二版>」に掲載されていることが紹介された。学会への入会促進に関して、学会のPRはもちろんのこと、開催地域での会員拡大、魅力あるテーマ、期待に応える内容、養成機関での紹介などが大切であるなどの意見が出された。終了後、参加者から、「設立時からの経過がとてもよくわかった」「本学会での学びは、職務上の迷いから抜け出し、養護教諭としての誇りをもつことにつながった」などの意見が寄せられ、それぞれが本学会に対する思いを深める好機となり、20周年を機に今後の学会のさらなる充実発展に向けて考えることのできた

#### <質疑応答の場面>



有意義なシンポジウムであった。

### 3. 学術集会における一般発表の演題区分の提示

学会設立 20 周年記念事業の一環として第 20 回学術集会から「一般演題の領域区分」を位置づけることにした。実行委員会に相談し、理事会で協議して、10 項目（その他を含む）の演題区分でのエントリを実施した。

10 項目の作成にあたっては、まず、学問的な区分を意識して、養護学や養護教育学などの基盤にかかわる領域を提示した。

1. 原論、歴史 …養護の概念や歴史に関するもの
2. 制度 …養成・研修など法的な背景をもつ様々なもの

次に、学会名にある「養護教諭教育」の構成要素（養護実践・養成教育・現職教育の三位一体）を意識して提示した。ただし、養護実践は、実践や実践報告の定義づけとも関わり、なかなか難しい面があるので、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」で取り上げてきた用語を活用して、保健管理・健康教育・組織活動をクローズアップさせ、かつ、これら 3 つには該当しない保健室経営を特出させた。その他も加えた。

3. 養成教育 …3 本柱の一つである。
4. 現職教育 …3 本柱の一つである。
5. 保健管理 …用語集作成に際し、「健康管理は人的要素が強くなるので、人的・物的要素をふまえて、この言葉にした」経緯をふまえて表記。
6. 健康教育 …用語集作成に際し、「保健教育は学校保健の領域で使用する言葉であるため、より広い意味をもたせるために、この言葉にした」経緯をふまえて表記。
7. 組織活動 …保健管理や健康教育を推進する上で欠かせない。連携を並記することもありだが、全体のバランスからシンプルにした。
8. 保健室経営 …他に比べて具体的な言葉となるが、いずれにも該当しないとの意見を受けて特出させた。
9. 養護実践 …3 本柱の一つである。

#### 10. その他

以上 10 項目のうち、例えば、養護実践は論文化すれば学会誌では「実践報告」となる可能性が大となる。つまり、研究論文としてのあり方も意識しながら、養護教諭の専門性を支える領域、本学会における理念なども勘案してまとめたという案である。

第 20 回学術集会における一般演題（口頭発表とポスター発表）41 件の内訳は下記の通りであった。

- |   |
|---|
| ① 原論・歴史…1、② 制度…0、③ 養成教育…4、④ 現職教育…5、⑤ 保健管理…8、⑥ 健康教育…14、<br>⑦ 組織活動…2、⑧ 保健室経営…4、⑨ 養護実践…3、⑩ その他…0 |
|---|

これらから、学問的な区分を意識して「養護学」や「養護教育学」の基盤にかかわる領域として提示した①②が極めて少ないこと、学会名である「養護教諭教育」の構成要素（養護実践・養成教育・現職研修の三位一体）を意識して提示した③～⑨では⑤⑥が多いことがわかる。ただし、今回は発表者の希望通りに区分しているため領域と発表内容が合致していないものも含まれる。精査は今後の課題であるが、この検討は学会誌の掲載論文の精選にも生かすことができると考える。

### 4. 「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第二版〉」の発行

予定通り、2012 年 10 月 1 日付で発行した。学会会場にて会員に配付し、会員外の希望者には有料にて販売した。第一版の 30 語から第二版は 32 語へと改訂した。発行の趣旨や改訂の背景など、その概要は後述のとおりである。